

講義名		研究演習（経）				
講義コード		12229	授業形態		開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2 時限
担当教員		平越 裕之			サンパリング・コード	SEM250

学部・学科		演習分野	
経済学科・経済情報学科		平越裕之ゼミナール(情報と経済)	

概要説明

情報が我々の判断や生活にどのように影響するかを考えていきます。ゼミ時間内で学修するのは主に以下の1と2で、その割合はその学年のゼミメンバーに合わせていきます。

1、行動経済学の超初心者本の輪講→初心者本の輪講
「ブラセボ（ブラシーボ；偽薬）効果」は、本当は何の意味もないものを「薬を服んでいる」と思い込むことによって、薬が効いているかのように症状が改善することです。こういった非論理的、非合理的な「勘違い情報＝心理的情報」が、生活に及ぼす影響は案外大きいようです。論理的に説明がつかない様々な例外的な現象を、人間の心理面から光を当てて、どのような情報がどのように心理に影響してどのような行動に出るのか、ということを実験研究してまとめたものが行動経済学です。情報が行動に影響する例の一つとして取り上げます。卒論に繋げてもOKです。

2、基礎力（生活、数的処理、Excel操作など）のトレーニング、コミュニケーションの練習
例えば生活は生きていくうえで自分を守る基礎力、数的処理は難しい数学ではなく、物事の基本的考え方とも言えます。「NISAってなに？」「クレジットカードってどう使う？」「このメールのURLってなんかおかしい？」のような生活力の知識なども調査していきます。また対人コミュニケーションは伝達手段として必要不可欠です。ゼミ中には、例えば「今週あった印象的なこと」の話を順にしたり、趣味について語ったり、あるいは小問を解いてみたり、そういった雑談のような時間を設け、個々の現在地に合わせてわずかでも力を伸ばせるようにと考えています。卒論に繋げてもOKです。

また、個別にテーマを決めて独自に調査することも可能です。
3、自分の興味ある事例の「疑問点」などについての調査とまとめ
あなたの興味分野において、何かしらの疑問がある内容について、可能な限りのチャネルを使って調査を行い資料としてまとめていく時間もとれます。グループで行ってもOKです。卒論に繋げてもOKです。

2年後期から3年までの1年半はこれらの内容を継続していく予定です。4年については、各自が選んだテーマに沿って調査などを進めてまとめていき最終的に卒論に結び付けていきます。

出来れば人と少しは知り合いになり話をしてみたい、人に攻撃されたくもないし攻撃したくもない、難しそうなことを完遂する自信はないけれど出来ることなら少しチャレンジしてみたい。ただ単に単位取得のためだけでなくできれば少し自分を伸ばしたい、そんな人に来てもらいたいと思っています。もちろん成功すればいいですが、失敗してもチャレンジしていれば評価します（2年、3年）。

主な卒業論文のタイトル

関連することであればどのような内容でも基本的にはOKです（要相談）。
社会に全く役立たない内容はNGです。

（ 以下は過去のゼミ内容における卒論）
遺伝的アルゴリズムを用いた組み合わせ問題の解法—食材組合せ問題—
カテゴリ別英語辞典ソフトの開発
携帯電話アプリケーション開発における入門性の違い

教員よりの要望

ゼミは個々でもありチームでもあります。人に合わせる必要はありませんが、周りに対する優しさを持って接して下さい。「無関心」ということはありません。関心を持ったうえで多様性を認めることがチームとして重要となります。

選考方法

研究演習（2年次後期）
・書類選考

研究演習（3年次）
・他のゼミから希望するものは研究演習 と同様に選考しますが、研究演習 の内容と同程度以上習得を行なっていることも重要です。また、移動しようと思った経緯をA4一枚程度で説明して下さい。

評価方法		
出欠状況、課題への取り組みとその成果、ゼミ活動での貢献度を基に総合的に評価します。 ・1/3以上欠席すると単位取得できません。 ・あなたのレベルでちゃんと努力していれば評価します（2年、3年）。 ・卒業研究は、卒業論文の評価が加わります。		
教員英字氏名		研究室
HIRAKOSHI Hiroyuki		研究棟 2509研究室
最終学歴		
神戸大学大学院工学研究科システム工学専攻修士課程了		
学位		
博士（理学）		
主な研究活動・社会活動・研究業績		
・Excel関数・式問題答案の自動正誤判定と受講者への即時フィードバックによる教育効果改善、流通科学大学論集(2024:共著) ・人間の判断の存在を考慮したExcel関数・式問題に対する解答の正誤判定と採点の自動化、流通科学大学論集(2023:共著) ・項目応答分析Raschモデル精察、現代図書（2011年：共著） ・Rasch項目分析モデル測定母数推定値分布幅、テスト次元性、並びに、Rasch測定適用妥当性 ・流通科学大学論集(2008:共著) ・複数条件を考慮した時間割配置問題のハイブリッドGA解法、流通科学大学論集(2008:共著) ・複数の待機状態を持つオートスリープシステムのコスト有効性に関する考察 - 多決定変数の解析 - , 流通科学大学論集（2006） ・申込型授業参観適用システムの設計・開発, 流通科学大学論集（2005） ・待機状態を持つハードディスクの回転制御に関する考察---コスト有効性の最大化---, 流通科学大学論集（2003） ・An Optimal Time to Sleep for An Auto-Sleep System considering Multi-Usage States, Mathematical & Computer Modelling,（2000：共著）など		
趣味・特技		
音楽（合唱、オケ、プラス、ビッグバンド...）、およびコンサート等の音響・映像収録など		
所属		
経済学部経済情報学科		
所属学会		
電子情報通信学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会		
専門分野		
確率モデル、システム工学		
担当科目		
プログラミング、プログラミング、情報ネットワーク、情報ネットワーク、経済情報特別演習、情報処理入門、専門基礎演習、研究演習、卒業研究、データ分析特論		
備考		
実務経験の有無及び活用		